



力尾 1
1738
夕

門ル 2
號 2985
卷 8

福澤諭吉纂輯

西洋事情外篇

慶應三年
丁卯季冬

尚古堂發兌

郎田氏藏記



ル 3
2985
4

西洋事情外編卷之一
題言

一西洋事情三冊既ニ世ニ行ハレ近日又其次編ヲ
需ル者多シ余今茲丁卯六月亞米利加ヨリ歸府
ノ後其稿ヲ起サレトセシカ思フニ本編總目ノ
順序ニ從テ其事ヲ記セシカ如キハ唯各國ノ史
記政治等一端ノ科条ヲ知ラシムルノミニテ未
タ西洋普通ノ事情ヲ盡スニ足ラス之ヲ譬ヘハ
猶柱礎屋壁ノ構成ヲ知ラスシテ遽カニ一家中
ノ部曲ヲ檢視スルカ如シ蓋シ本編ノ首ニ備考

題言

ヲ附タルモ原此趣旨ナレズ如キハ唯余カ
一時旅中ノ親見親聞ヲ手録セシモノナレハ其
遺漏固ヨリ少ナカラズ因テ今英人 チャンブル氏
所撰ノ經濟書ヲ譯シ傍ラ諸書ヲ鈔譯シ増補シ
テ三冊ト為シ題シテ西洋事情外篇ト云フ閱者
宜シク之ヲ事情ノ綱領ト看做シ以テ本編ノ備
考ト參照ス可シ

一 チャンブル氏ノ經濟書ハ書中論說ノ大段ヲ兩部
ニ分チ前部ニハ人間交際ノ道ヨリ各國ノ分立
スル所以各國ノ交際政府ノ起ル所以政府ノ幹

裁國法風俗及ヒ人民教育等ノ箇条ヲ說キコレ
ヲ「ソサイヤルエコノミ」トシ後部ニハ經國濟
世ノ事件ヲ論シコレヲ「ポリチカールエコノミ」
トス然ルニ頃日社友神田氏所譯ノ經濟小學二
冊ヲ得テ之ヲ閱スルニ其事實第二段ニ載スル
所ト略相似タレハ畢竟又大同小異ノ書ニ過ス
因テ余ハ唯本書中首ノ一段ヲ譯シ其餘經濟論
ノ詳ナルハ姑ク閣シテ之ヲ小學ニ讓レリ故ニ
此書ヲ讀ム者ハ必ス經濟小學ト參考シテ始テ
全昇ノ真味ヲ知ル可シ但シ余カ此書ノ全部ヲ

譯セサルハ敢テ其勞ヲ憚ルニ非ラス抑方今文
 化益開ケ翻譯ノ書陸續世ニ出ルト雖氏固ヨリ
 彼ノ百科萬端ノ學術有限ノカヲ以テ無限ノ書
 ヲ讀ムカ故ニ假令吾社ノ翻譯ヲ業トスル者各
 科目ヲ分チカヲ陳テ之ヲ譯スルトモ其全備ヲ
 期スルカ如キハ甚容易ナラス况ヤ今大同小異
 ノ書ニ於テ無益ノ勞ヲ費サンヨリ寧口其カヲ
 他書ニ用ヒ務テ新奇有益ノ事件ヲ譯シ廣ク之
 ヲ世ニ布告セルニハ如カス是余カ此書ノ全部
 ヲ譯セサル所以ノ鄙意ナリ知ラス今果シテ其

然ルヤ小學ニコレヲ分業ノ便利ニ由ルト謂フ
 モ豈亦善ラズヤ
 一書中原本ノ順序ニ從テ条目ヲ立テ間其他書ヲ
 鈔譯シテ増補スルニ係ルモノハ其字行ヲ一段
 下クシ以テ本文ト區別ス覽者草々看過シテ混
 スルト勿レ

慶應三年丁卯季冬

福澤諭吉 誌

一、西國事情外編
 二、西國事情外編
 三、西國事情外編
 四、西國事情外編
 五、西國事情外編
 六、西國事情外編
 七、西國事情外編
 八、西國事情外編
 九、西國事情外編
 十、西國事情外編
 十一、西國事情外編
 十二、西國事情外編
 十三、西國事情外編
 十四、西國事情外編
 十五、西國事情外編
 十六、西國事情外編
 十七、西國事情外編
 十八、西國事情外編
 十九、西國事情外編
 二十、西國事情外編
 二十一、西國事情外編
 二十二、西國事情外編
 二十三、西國事情外編
 二十四、西國事情外編
 二十五、西國事情外編
 二十六、西國事情外編
 二十七、西國事情外編
 二十八、西國事情外編
 二十九、西國事情外編
 三十、西國事情外編
 三十一、西國事情外編
 三十二、西國事情外編
 三十三、西國事情外編
 三十四、西國事情外編
 三十五、西國事情外編
 三十六、西國事情外編
 三十七、西國事情外編
 三十八、西國事情外編
 三十九、西國事情外編
 四十、西國事情外編
 四十一、西國事情外編
 四十二、西國事情外編
 四十三、西國事情外編
 四十四、西國事情外編
 四十五、西國事情外編
 四十六、西國事情外編
 四十七、西國事情外編
 四十八、西國事情外編
 四十九、西國事情外編
 五十、西國事情外編
 五十一、西國事情外編
 五十二、西國事情外編
 五十三、西國事情外編
 五十四、西國事情外編
 五十五、西國事情外編
 五十六、西國事情外編
 五十七、西國事情外編
 五十八、西國事情外編
 五十九、西國事情外編
 六十、西國事情外編
 六十一、西國事情外編
 六十二、西國事情外編
 六十三、西國事情外編
 六十四、西國事情外編
 六十五、西國事情外編
 六十六、西國事情外編
 六十七、西國事情外編
 六十八、西國事情外編
 六十九、西國事情外編
 七十、西國事情外編
 七十一、西國事情外編
 七十二、西國事情外編
 七十三、西國事情外編
 七十四、西國事情外編
 七十五、西國事情外編
 七十六、西國事情外編
 七十七、西國事情外編
 七十八、西國事情外編
 七十九、西國事情外編
 八十、西國事情外編
 八十一、西國事情外編
 八十二、西國事情外編
 八十三、西國事情外編
 八十四、西國事情外編
 八十五、西國事情外編
 八十六、西國事情外編
 八十七、西國事情外編
 八十八、西國事情外編
 八十九、西國事情外編
 九十、西國事情外編
 九十一、西國事情外編
 九十二、西國事情外編
 九十三、西國事情外編
 九十四、西國事情外編
 九十五、西國事情外編
 九十六、西國事情外編
 九十七、西國事情外編
 九十八、西國事情外編
 九十九、西國事情外編
 一百、西國事情外編

西洋事情外編目錄

卷之一

人間

家族

人生ノ通義及其職分

世ノ文明開化

貴賤貧富ノ別

世人相勵ニ相競ノ事

「ト」ノ傳

「ステ」ノ傳

人民ノ各國ニ分ル、トヲ論ス

各國交際

政府ノ本ヲ論ス

卷之二

政府ノ種類

國法及ニ風俗

政府ノ職分

卷之三

人民ノ教育

經濟ノ總論

私有ノ本ヲ論ス

勤勞ニ別アリ功驗ニ異同アルヲ論ス

發明ノ免許

藏版ノ免許

私有ヲ保護スル事

私有ノ利ヲ保護スル事

目錄終

西洋事情外編卷之一

人間

福澤諭吉 纂輯

人ノ生スルヤ天ヨリ之ニ與フルニ氣力ヲ以テシ
 之ニ附スルニ性質ヲ以テシ此氣力ト性質トニ由
 テ外物ノ性ニ應シ以テ身ヲ全シテ朝露ノ命ヲ終
 ルコトヲ得ルナリ
 外物ノ来ルニ從ヒ機ニ臨ミ變ニ應シテ其處置ヲ
 施シ一朝ノ患ナク亦終身ノ憂ナシ是レ所謂人間
 ノ幸ナレハ安ニ喜怒哀樂ノ情ニ逐ハレ血氣ノ情

欲ニ制セラル、トナク適宜ニ心身ヲ用テ我望ム
所ヲ達シ我好ム所ヲ得テ自カラ満足セシトテ求
ム可シ之ヲ概シテ云ヘバ人ハ為ストアル可キノ
造物ナリ寒熱痛痒風雨水火ノ如キ人ニ害アルニ
似タレト却テ人ノ氣ヲ引立其働ヲ勵マズノ一大
助ナル可シ凡ソ我ニ得ルトアラント欲スル者ハ
先ツ我心身ヲ勞セサル可ラス千辛萬苦勞ヲ憚ル
勿レ人生勞セサレハ功ナシ
人間開闢ノ初ニ於テハ固ヨリ相交ルノ道ヲ教ル
者ナシ唯其自然ニ希望スル所ト人氣ノ趣ク所ニ

隨テ知ラス識ラス交際ノ法則ヲ設テ互ニ便利ヲ
得タリシトナレト歳月ヲ經ルニ從テ其諸法ノ内
ヨリ至當ナルモノヲ撰テ終ニ一科ノ學ト為シ之
ヲ人間ノ交際及ヒ經濟ノ學ト名ケリ今此法則ナ
ルモノ果シテ理ノ當然ニ出テ變革ス可ラサルヤ
否ハ定メ難シト雖ト多クハ天下古今ノ實驗ヲ經
テ妨ナキモノナリ世人或ハ人間ノ交際及ヒ經濟
ノ新法ヲ唱テ之ヲ稱譽スル者モ亦少カラスト雖
ト是等ハ皆其人ノ陋見ヨリ出テシトニテ自然ノ
人心ニ戾レリ故ニ今コ、ニ論スル所ハ唯人ノ天

性ニ後フヲ以テ基本トセリ若シ之ニ反シテ人間
交際ノ道ヲ立ントセハ必ス其弊アル可シ

家族

人間ノ交際ハ家族ヲ以テ本トス男女室ニ居ルハ
人ノ大倫ナリ子生レテ弱冠ニ至ルマテ父母ノ膝
下ニ居テ其養育ヲ受ルモ亦普通ノ大法ナリ斯ノ
如ク夫婦親子團欒一家ニ居ルモノヲ家族ト云フ
凡ソ世間ニ人情ノ厚クシテ交ノ睦キハ家族ニ若
クモノナシ○一家族モ其子孫繁昌スレハ一族ノ
人種タルニ至ル今一國ニ千百ノ家族アリテ其言

語ヲ同フシ其風俗ヲ共ニスルハ元来一家族ノ繁
殖セシモノト云フ可シ固ヨリ一國人民ノ由来ヲ
知ラントスルニハ其探索甚ク難キヲナレト大凡
ソ其躰格ト氣質トヲ見レハ其先祖ノ同一家ナル
ヲ察知ス可シ

夫婦ノ配偶ハ人ノ幸ヲ増シ人ノ交ヲ厚クスルモ
ノナリ固ヨリ天ノ然ラシムル所ニテ人カニ非ス
鳥獸ノ類子ヲ生ムハ自カラ一時ノ配偶ヲ定テ
共ニ其子ヲ養フト雖氏之ヲ養テ既ニ成長スレハ
則チ其配偶ヲ破テ更ニ雌雄牝牡ノ定ナシ人ノ子

ハ初生ノ際殊ニ薄弱ニシテ其成長スルモ亦甚ク
晚シ此時ニ當テ父母力ヲ共ニシ心ヲ同フシテ之
ヲ養育煦哺スルハ即チ人ノ至情ナリ且其子ノ薄
弱ニシテ成長ノ晚キハ造物主ノ故サラニ意ヲ用
テ人ノ配偶ヲ固スルノ深旨ナル可シ
人其子ヲ養育シ又之ヲ保護シ其無病安全ヲ祈テ
子ノ為ニ働キ子ノ為ニ苦勞シ之ヲ導キ之ヲ教ル
ニハ其煩シキヲ限ナシト雖凡嘗テ之ヲ憚ルヲナ
ク子ニ對シテ少シモ彼我ノ差別ナキハ人ノ至情
天ノ大道ナリ凡ソ外物ニ交ルニ人トシテ相競フ

ノ心アラサル者ナシ或ハ之ヲ其私欲ト謂フモ可
ナリ然ルニ今家ニ入レハ家族ノ間相競ニ相争フ
ノ痕跡ヲモ見サルハ何ソヤ思フニ造物主ノ深意
ニテ家族ノ睦キ情合ヲ推シ廣メ四海ノ内ヲ一家
族ノ如クナラシメントスルノ趣旨ナル可シ抑石
ノ如ク家族ノ間ハ睦シテ扶キモノナレ凡其大本
ヲ尋レハ畢竟夫婦相信ニ親子相親ムノ情アルニ
由テノナレハ世間若シ配偶ノ道ナクハ夫婦親
子ノ情ヲ失テ斯ル家族ノ幸ハナカル可シ
一夫一婦家ニ居ルハ天ノ道ニテ之ヲ一家族ト名

ク然ハ則テ衆夫衆婦相集ルモ亦天道ノ大義ナリ
斯ク人ノ相集リ相交ルモノヲ一種族又ハ一國ノ
人民ト名ク禽獸ハ各其性ヲ異ニシ或ハ群居ヲ好
マズ寂寞トシテ獨リ食ヲ求ルモノアリ或ハ友ヲ
呼ビ群ヲ成シ巢穴ヲ同フシ餌食ヲ與ニスルモノ
アリ今人ノ所為ヲ察スルニ其天稟群居ヲ好ミ此
彼相交リ此彼相助テ互ニ世ノ便利ヲ達スルノ性
質アリ世人或ハ此理ヲ知ラス獨歩孤立シテ世ヲ
渡ラントセシ者アリシカニ底到其身ノ幸ヲ失ヒ
却テ世間ノ害ヲ為スニ至レリ

億兆ノ人民其性情相同キカ故ニ交際ノ道世ニ行
ハレテ妨ナシト雖凡人々ノ了簡ハ各持前ノ見込
アリテ必シモ一致ニ難シ故ニ人間ノ交ヲ全セシ
ニハ相互ニ自由ヲ許シ相互ニ堪忍シ時トシテハ
我了簡ヲモ枉テ人ニ從ヒ此彼相平均シテ始テ好
合調和ノ親ミヲ存ス可シ
人生ノ通義及ヒ其職分
天ヨリ人ニ生ヲ與レハ又從テ其生ヲ保ツ可キノ
才力ヲ與フ然レ凡人若シ其天與ノ才力ヲ活用ス
ルニ當テ心身ノ自由ヲ得サレハ才力共ニ用テ為

サス故ニ世界中何等ノ國タルヲ論セス何等ノ人種タルヲ問ハス人々自カラ其身軀ヲ自由ニスルハ天道ノ法則ナリ即チ人ハ其人ノ人ニシテ猶天下ハ天下ノ天下ナリト云フガ如シ其生ル、ヤ束縛セラル、フオク天ヨリ附與セラレタル自主自由ノ通義ハ賣ル可ラス亦買フ可ラス人トシテ其行ヒテ正フシ他ノ妨ヲ為スニ非サレハ國法ニ於テモ其身ノ自由ヲ奪取ル能ハス今給科ヲ受テ人ニ奉公スル者ハ或ハ其身不自由ナルニ似タレ氏其實ハ然ラス奉公ノ人ニテモ其身軀ハ其人ノ

身軀ニテ煩勞ノ代ニハ給科ヲ受ケ一身ノ處置ヲ為スニ他ヨリ之ヲ問然スル者アルコトナシ○右所述ノ自由ノ趣意ハ國ノ制度ニ於テ許ス所ニテコレヲ人民普通ノ自由ト名ク天下ノ為ニ大法ヲ作ルニハ其人民ヲ一樣ニ見ル可シ小兒ト云ヒ大人ト云ヒ乞兒ト云ヒ富豪ト云フモ其生命ノ貴キハ同一ナリ貧兒ノ一敝衣モ法ヲ以テ之ヲ護ルニ至テハ諸侯ノ領地ニ比シテ孰カ輕重ノ別ナシ人ノ一身ヲ進退シ活計ノ道ヲ擇ヒ遊樂ノ趣ヲ異ニスルモ各其人ノ意ニ任シテ他

ヨリ之ヲ妨ク可ラス又人ノ天稟ニ於テ自カラ身
ヲ重シシ身ヲ愛スルノ性アラサル者ナシ是亦造
物主ノ深意ニ出ルヲナレハ人々ニ此天性ヲ遂ケ
シメサル可ラス是即チ萬民同一轍ノ通義ニテ人
ノ生ナガラ知ル所ナリ抑人生ニ才不才アリ時ニ
遇不遇アリテ同一ノ人類ト雖氏貴賤貧富智愚強
弱ノ差雲壤懸隔シテ其形同シカラサルニ似タレ
氏其實ニ就テ之ヲ視レハ生命ヲ存シ自由ヲ求メ
身ヲ重シシ物ヲ保ツノ通義ヲ妨ルコトナシ
人各其通義ヲ逞フシテ天性ヲ束縛スレコトナケレ

又從テ其職分ヲ勤トメサル可ラス之ヲ譬ヘバ
家業ヲ營テ運上ヲ納ルカ如シ自カラ衣食ヲ求メ
又家族ノ為ニ之ヲ給シテ他人ノ煩ヲ爲サビルヨ
ウニ心掛ルハ人タル者ノ職分ナリ世ニ法律アリ
テ我身軀ヲ保チ我通義ヲ達スルコトヲ得ルガ故ニ
小心翼翼ヲ以テ其法律ヲ尊敬セサル可ラス是亦人
タル者ノ職分ナリ若シ人トシテ自カラ衣食住ヲ
給スルノ道ヲ知ラスシテ他人ノ煩ヲ爲シ徒ニ我
自由ヲ求メ我通義ヲ達セントスルハ即チ人ノ功
ヲ盜ムナリ斯ノ如クシテハ天下一日モ交際ノ道

ヲ存ス可ラス又世人法律ヲ頼テ我身ノ守護ヲ求
ノ後ラ又此法律ヲ破リ我求ル所ヲ求テ我守ル可
キヲ守ラサル者多クバ天下一日モ法ノ行ハル
ナク人間交際ノ道モ地ヲ拂テ廢却ス可シ
人間交際ノ大本ヲ云ヘバ自由不羈ノ人民相集テ
カヲ役シ心ヲ勞シ各其功ニ從テ其報ヲ得世間一
般ノ爲ニ設ケシ制度ヲ守ルナリ然レ凡之ヲ實
地ニ施スニ當テハ衆人ノ内ニ薄弱多病自カラ衣
食ヲ給スルヲ能ハスシテ他人ノ扶助ヲ仰ク者ア
リ是天性ノ不幸ナルガ故ニ他ヨリ之ヲ扶助スル

ハ健康無事ノ人ノ職分ニテ其法或ハ人々ノ志ニ
從テ私ニ衣食ヲ與ルヲアリ或ハ窮ヲ救フノ法則
ヲ設ルヲアリ固ヨリ死生不定ノ人身ニ道ル可ラ
サルノ不幸ナレバ之ヲ助ルハ即チ造物主ノ趣旨
ナリ故ニ薄弱多病ニテ他ノ扶助ヲ蒙ルトモ其本
人ニ於テ聊之ヲ恥ルノ理ナシ又身軀健康ニシテ
行ヒ正シキ者心カヲ勞セント欲スレバ一時ノ故
障ニ妨ケラレテ意ノ如クナラサルヲアリ此亦相
互ニ扶助セサル可ラス○右ハ人ノ薄命不幸ヲ處
置スル法ナレバ本来人間ノ大義ヲ論スレバ人々

互ニ其便利ヲ謀テ一般ノ為ニ勤勞シ義氣ヲ守リ
廉節ヲ知リ勞スレハ從テ其報ヲ得不羈獨立以テ
世ニ處シ始テ交際ノ道ヲ全ス可キナリ
前条ノ議論ヲ尚又明ニ了解セシ一欲セバ人々内
ニ自カラ顧テ我一身モ猶他人ノ如ク心カヲ勞シ
テ世ニ存スルヲ得ルモノト思フ可シ然ルニ今
懶惰無為ニシテ世ヲ渡ントスルハ即チ他人ヲシ
テ一陪ノ勞ヲ為サシノ竊ニ其功ヲ盜ムニアラズ
ヤ故ニ人トシテ義氣廉節ヲ知ラハ懶惰ヲ以テ自
カラ安ス可ラス或ハ又人ノ言ニ自カラ勞役セン

ト欲スレハ其機會ヲ得スト云フ者アリ然レハ其
實ヲ論スレハ是レ亦道辭ナリ許ス可ラス凡ソ人
間ノ交ニ兄弟用友ニ非サルハ外ハ人ノ為ニ周旋
シテ其活計ヲ得セシムル者ナシ加之人ノ活計ハ
臨機應變預ノ期ス可ラヌ躬カラ其職業ヲ求テ始
テ安心ノ地位ヲ得可キナリ故ニ人間交際ノ道ヲ
全センニハ懶惰ヲ制シテ之ヲ止メサル可ラス或
ハ之ヲ罰スルモ亦仁ノ術ト云ス可シ
又人々交際ノ道ヲ存セント欲セバ各其德行ヲ修
メ法令ヲ守ラサル可ラス野鄙固陋ノ風習ヲ脱シ

テ禮義文明ノ世ニ居ルハ人ノ欲スル所ナリサス
レハ人々徳ヲ修メ法ヲ畏テ世ノ文明開化ヲ助ケ
サル可シヤ若シ然ラマシテ世ノ風俗ヲ害スル者
ハ其罪身ヲ懶惰ニシテ他人ノ功ヲ奪フ者ニ等シ
キカ故ニ之ヲ罰シテ後難ヲ防サル可ラス其法或
ハ衆人ノ評議ニ從テ之ヲ罰スルコトアリ或ハ裁判
所ヲ設テ罪ヲ決斷スルコトアリ裁判ノ法ハ開闢ノ
始ヨリ世ニ行ハレテ之ヲ遵奉スルハ世人當務ノ
職分ナリ
文明ノ眼ヲ以テ之ヲ觀レハ諸法ノ内或ハ人ニ不

便ナルモノアルニ似タレトモ國ノ制度ヲ以テ施行
スルノ間ハ之ヲ守ラサル可ラス若シ暴行ヲ恣ニ
シテ此法ヲ破ル者アラハ世ノ害ヲ為スコト甚大ナ
リ都テ國法ノ趣旨ハ人ノ通義ヲ達シ人ノ生命ヲ
保テ業ヲ營ミ身ヲ安セシムルノ大本ナレバ之ヲ
蔑視シテ畏レサル者ハ自カラ其愚ヲ表スルニ等
シ若シ又事實不便ノ法アラハ國議ニ由テ穩ニ之
ヲ改正シ其弊ヲ除テ妨ナキコトナリ

世ノ文明開化

歴史ヲ察スルニ人生ノ始ハ莽昧ニシテ次第ニ文

明開化ニ赴クモノナリ莽昧不文ノ世ニ在テハ禮
義ノ道未タ行ハレズシテ人々自カラ血氣ヲ制シ
情欲ヲ抑ユルヲ能ハス大ハ小ヲ犯シ強ハ弱ヲ虐
シ配偶ノ婦人ヲ視ルヲ奴婢ノ如ク父ノ子ヲ御ス
ルニ無道ヲ以テスルモ之ヲ制スル者ナシ且世間
相信スルノ意薄クシテ交際ノ道甚タ狭キカ故ニ
制度ヲ設テ一般ノタメニ利益ヲ謀ルヲ能ハス世
ノ文明ニ赴クニ從テ此風俗次第ニ止ミ禮義ヲ重
シテ情欲ヲ制シ小ハ大ニ助ケラレ弱ハ強ニ護ラ
レ人々相信シテ獨其私ヲ顧ミス世間一般ノ為ニ

便利ヲ謀ル者多シ○或人以為ラク上古蠻野ノ人
水草ヲ逐テ處ヲ移スニ其出處進退ヲ妨ル者ナカ
リシニ人間交際ノ道世ニ行ハレテヨリ或ハ却テ
人ノ性情ヲ矯ルヲアレバ人生最大ノ自由ハ蠻野
ノ世ニ在リト然レモ是レ其一ヲ知テ其二ヲ知ラ
サルノ論ナリ蠻野ノ世ニ行ハル、自由トハ恰モ
人ヲシテ餓死セシムルノ自由ナリ力ヲ以テ暴虐
ヲ恣ニスルノ自由ナリ罪ヲ犯シテ罰ヲ蒙ルトナ
キノ自由ナリ豈コレヲ眞ノ自由ト云フ可シヤ文
明開化ニ從テ法ヲ設ケ世間一様ニコレヲ施シテ

始テ真ノ自由ナルモノヲ見ル可シ
又或人ノ説ニ蠻野ハ天然ナリ文明ハ人為ナリト
云フ者アレハ畢竟字義ヲ誤解シタル論ナリ文明
ノ世ニ行ハル、事物一トシテ天然ニ出テサルモ
ノナシ世ノ開化ヲ進メ法則ヲ設ケ其法寛ナレハ
之ヲ犯ス者ナク人々力ニ制セラレヌシテ心ニ制
セラル、ハ文明ノ有様ニテ即チ人生天稟ノ至性
ナリ之ヲ人為ト云フ可ラス固ヨリ太古草昧ノ時
ニ當テハ其風俗自然ニ出ルモノモ亦多カル可シ
ト雖氏今其風俗ニ止テ更ニ進マサルハ必ス外物

ノ故障アリテ然ラシムルコトナレバ却テコレヲ人
為ト云フ可シ其一證ヲ舉テ云フニ野鄙草昧ノ人
ハ衣食住居共ニ不潔シテ文明開化ノ人ハ清潔ナ
リ今人トシテ其天性汚穢ヲ好テ清潔ヲ惡ム者ア
ラシヤサスレハ野鄙草昧ノ人ノ不潔不清ナルハ
未タ其人ノ天性ヲ伸ルコト能ハサルモノニシテ之
ヲ譬ヘハ初生ノ小兒ニ未タ才力ノ發生ヲ見サル
カ如シ
野鄙草昧ノ人ハ必ス天然ニ後テ人為ヲ用ルコトナ
シト思フハ大ナル誤解ナリ某國ニ一種ノ野民ア

リ其風俗頭ノ低キヲ貴ヒ子生レハ其頂ニ板ヲ結
付テ頭ノ形ヲ造ル又支那ハ文明ノ教未ク浴カラ
ザルモノニテ半開半化ノ國ト云フ可シ然ルニ其
風俗婦人ノ足ノ細小ナルヲ美トシテ女子生レハ
其足ニ窄キ鉄ノ履ヲ着テ其天然ノ形ヲ成サシメ
ス是等ハ皆人為ヲ以テ天然ヲ害スルモノト云フ
可シ今真ニ文明開化ト唱ル國ニ於テハ斯ク天然
ヲ害スルノ甚シキモノヲ見ズ
諺ニ云ク人ハ文明ニ至テ其美ヲ盡スト野鄙草昧
ノ國ハ七地ノ廣ニ比シテ人口其タ少シ之ヲ平均

シテ一里四方ニ一人ヨリ多カラス其故ハ食料ノ
不足ナルニ由テ然ルナリ文明ノ國ニ於テハ耕作
ヲ勸メ牧畜ヲ勵ミエテ勤ノ業ヲ營テ其人口次第
ニ増シ之ヲ平均シテ一里四方ニ二百五十人ノ數
ニ至レリ又草昧ノ人ハ老幼ヲ養フノ法ヲ知ラス
且其生活ニ艱難ヲ凌クト多キカ故ニ人多クハ短
命ナレド文明開化次第ニ進ノバ隨テ人ノ生命モ
長壽ヲ得ルニ至ル英國ニ於テ百年以來ノ人ノ死
生ヲ計テ之ヲ平均シタルニ國人ノ壽命次第ニ増
加セリト云

世界中ノ人口八億五千萬コレヲ世界中ノ地面
ニ平均スレハ一里四方ニ十七人ノ割合ナリ又
人ノ壽命ヲ平均スレハ三十三歳ヲ定命トス或
ハ此數ニ二倍ニ或ハ三倍スル者モアレハ百歳
以上マテ生ル者ハ甚稀ナリ故ニ天壽相混シテ
三十三歳ヲ平均ノ壽命トスレハ三十三年ノ間
世界中ニ死生スル者八億五千萬人一年ニ二千
六百萬人一日ニ七萬人一時ニ三千人一分時ニ
五十人ノ割合ナリ

抑文明開化ト唱ル英國ニテモ其教化未タ洽シト

云フ可ク文字ノ教育ヲ受ケズシテ無學文盲ナ
ル者アリ放蕩無頼罪ヲ犯ス者アリ又其邊鄙ノ地
ニ至テハ上古懶惰ノ風ニ安シテ文明ノ味ヲ知サ
ル者アリ然レモ是等ハ皆文明世界中ノ野人ナレ
ハ遂ニハ他ノ風ニ靡キ他ノ徳ニ化シテ共ニ天地
ノ歡樂ヲ亨ルノ日アル可シ
前条ノ如ク文明ノ世界中ニ居テ其教化ヲ蒙ラサ
ル者アルハ固ヨリ世ノ弊ナレモ此弊ハ文明ノ盛
ナルニ從テ自カラ除ク可キモノナリ又文明ノ進
ムニ隨テ共ニ生スル一種ノ弊アリ此弊ヲ救フニ

ハ他ニ其法術ヲ求サル可ラス今其一ニヲ舉テ云
ジニ文明ノ教盛ナレハ世間富饒ヲ致シコレカ為
ニ貧人ノ心ヲ煽動シテ惡事ニ陥ルヲアリ文明ノ
弊ナリ機關ノ制式次第ニ精巧ヲ極メ隨テ商法モ
其趣ヲ變スルニ至テ回來ノ工商一時ニ其産業ヲ
失ヒ衣食ニ窮スル者亦少ナカラズ此亦文明ノ弊
ナリ今此弊害ヲ救ヒハ世人ヲシテ一般ニ世ノ
形勢ヲ了解セシメ其心ヲ勞シ其力ヲ役シテ新ニ
衣食ヲ求ム可キノ方向ニ導クノ外他ニ方術ナシ
凡ソ人トシテ義氣廉節ヲ守リ心カヲ勞シテ憚ル

トナクハ彼令ヒ相競ヒ相争フノ世ト雖ヒ活計ノ
路ヲ得ルヲ疑ナシ即チ是文明ノ世界中ニ求ム可
キ活計ノ路ナリ

貴賤貧富ノ別

前既ニ論セシ如ク人ノ生命ヲ保チ自由ヲ求ノ身
ヲ重シ物ヲ有スルノ理ハ億兆ノ人民同一轍ニシ
テ其別ナシト雖ヒ人ノ氣質ト才力トニ至テハ然
ラス或ハ穎敏活潑ナルアリ或ハ愚鈍懶惰ナルア
リ或ハ謹慎勉強スルアリ或ハ放奢淫佚ナルアリ
或ハ強アリ或ハ弱アリチ人々ノ天稟必シモ一様

ナラス加之今コ、ニ二人アリテ其天稟毫モ優劣
ナキ者ト雖氏一人ヲ教テ一人ヲ棄レハ其人物忽
チ變シテ雲壤懸隔ス可シ是即チ貴賤貧富ノ由テ
分ル所以ナリ概シテ之ヲ云へバ人ノ知ラサル所
ヲ知ル者ハ人ヲ制シ人ノ知ル所ヲ知ラサル者ハ
人ニ制セラル、ノ理ナリ
世間ノタメニ勞シテ功ヲ立テシ者へ爵位ヲ與へ
或ハ服飾ヲ許シテ其功ヲ表スルハ各國ノ風俗ニ
テ其本人ニ於テモ之ヲ榮トシ且又他人ヲ勵マス
ノ一大助トナル可シ或ハ國々ノ風俗ニテ有功ノ

者ト雖ハ服飾ヲ與へサル國モアレ氏之ヲ貴フノ
心ハ萬國普通ノ人情ナリ
右ノ如ク有功ノ者へ爵位服飾ヲ與ルハ固ヨリ當
前ノ理ニテ人ノ許ス所ナレ氏之ヲ其子孫ニ傳ル
ハ理ニ當ラズト云フ者アリ然レ氏古來諸國ニ於
テ有功ノ人一ニ度ニ爵位ヲ得レハ其子ハ嘗テ功勞
ナシト雖レ父ノ餘慶ヲ承テ世々爵位ヲ傳ルノ風
習トナリシハ何ソヤ學者若シコ、ニ疑アラバ許
ス人ノ至情ヲ察ス可シ然ルハ大ニ發明スル
アリテ此風習ノ無理ナラサルヲ了解ス可シ

凡ク世上ノ人晩年ニ及テ我所有ノ物ヲ處置セシ
ト思フトキ之ヲ與フ可キモノハ必ス其子ナル可
シ元來父子ノ間ハ同身同躰ナルカ故ニ父ノ命ハ
終ルトモ其子代テ之ニ繼グハ恰モ薪ノ盡テ火ノ
盡サルカ如ク唯其時代ヲ一新スルノミニテ父ノ
身命ハ依然トシテ存在スルニ異ナラヌ既ニ父ノ
生命身躰ヲモ承テコレヲ繼クコトナレバ其外ノ遺
物ヲ受ルニ於テハ固ヨリ理ノ當然ニテ更ニ疑ヲ
容ル可キニ非ス且世間ノ人モ同情相憐テ互ニコ
レヲ許サハルモノナシ既ニ父ノ身命ヲ繼キ又其

家産遺物ヲ受ケシニ獨リ其爵位ニ至テハコレヲ
中絶シテ與ルコトナカラントスルモ是亦人情ニ於
テ行ハレ難ク遂ニ其爵位モ家産遺物ト共ニ子孫
ニ傳ルノ風習トナレリ是即チ世人ノ功ナクシテ
位ヲ保チ名實相齟齬スルコトアルノ由縁ナリ
世人或ハ此風習ヲ以テ大ニ理ニ戾ルトテ議論ス
ル者少カラスト雖モ世間ノ人情ヲ察スルニ父ノ
爵位ヲ受ケシ二代目ノ人ヲ尊敬スルコト其初代ノ
人ニ異ナラス加之子々孫々世ヲ重ヌルニ從テ益
之ヲ貴フト甚ク思フニ此人情ハ人ノ古物ヲ貴

フ心ヨリ出テシヲナル可シ世間ノ人何心ナク云
ヘルヲアリ某ハ血統十二代目ノ名家ニテ今俄ニ
人カヲ以テ起ス可キ門閥ニ非スト世ニ旧國ノ君
ヲ尊敬スルモ亦此人情ナリ天下衆人ノ内ニハ文
武兼備ノ才徳アリテ國家ヲ支配ス可キ人物少カ
ラズト雖ル人心ヲ歸服セシム可キ門閥ナルモノ
甚ク稀ナルカ故ニ徳アル者ハ必ス天下ヲ保ツ可
キニ非ス方今世界中ノ諸國多クハ國王又ハ貴族
ニテ其政ヲ行フモ自然ノ人情ニ出テシトニテ遇
然ニハ非ラサルナリ

世人相勵ニ相競ス事

一種ノ情合ヲ存シテ互ニ身ヲ棄テ物ヲ棄テ、憚
ルヲナキハ家族ノ間柄ナレト今家ヲ出テ世間ヲ
見ルニ斯ル情合ノ存スル所ナク人々自カラ我路
ヲ行キ我職ヲ務メ我趣意ヲ達セントシテ先ヲ争
ハサル者ナシ是即チ世人相勵ニ相競フノ性情ニ
テ世ノタメニ益ヲナスト少カラズ世間若シコノ
人情ナクハ心カヲ勞シテ功名ヲ立ルモノナカル
ベシ
前条ノ如ク我幸福ヲ求メ我趣意ヲ達シ我活計ヲ

西漢書中
卷一
求テ他ヲ顧ミスト雖氏獨我私欲ヲ恣ニシテ他人ノ妨ヲ為スノ患ナキハ文明ノ然ラシムル所ナリ今教ナキ夷民ノ群集中ニ一片ノ財貨ヲ投與シナハ其群集忽チ上下ニ動乱シ互ニコレヲ争テ面ニ疵付ケ眼ヲ爪裂キ其醜体見ルニ忍レサルヤシト雖氏文明ノ世ニ於テハ然ラズ人皆是非ヲ知リ禮義ヲ重ムルカ故ニ人ヲ害シテ自己ノ趣意ヲ達スルコトナシ草昧不文ノ世ニ在テハ人ヲ害セサレバ自カラ利スルコト能ハス故ニ心身活潑ニシテ事ヲ成マ者ハ常ニ盜賊ナリ文明ノ世ニ於テハ然ラズ

富貴利達ヲ致ス者ハ常ニ他人ノ利益ヲ成シタル者ナリ富貴利達ヲ致スニ二操ノ道アリ其一ハ他人ノ物ヲ奪取ルト其一ハ自己ノ力ヲ以テ新ニコレヲ起ストナリ武ヲ貴ヒ力ヲ畏ルノ國ニ於テ富貴ヲ致スニハ必ス他人ノ物ヲ奪取ルノ外道ナシ故ニ不文不明ノ世ニ居テ富貴ナル人ヲ見ルニ必ス他人ノ損害ヲ成セルモノナリ即チ師ヲ起シテ安ニ人ノ國ヲ攻取リ盜賊同様ノ舉動ニテ自カラ富貴ヲ致スモノアリ又國民ヲ奴僕ノ如ク仕役シ其膏

血ヲ竭シテ自カラ富貴ヲ致ス者アリ是等ハ皆他人ノ損害ヲ為スモノナリ
東洋諸國ニ於テハ方今ノ世ニ至テモ尚暴政ヲ恣ニシ一時ノ私欲ヲ以テ富人ノ財ヲ没入スルヲアルカ故ニ假令ニ實ハ富豪ナルモノモ富豪ノ風ヲ人ニ示スハ身ノタシニ甚危シ歐羅巴ニ於テモ往古封建世祿ノ乱世ニ當テ世人安シテ産業ヲ營ムト能ハサルカ故ニ皆財貨ヲ集テ竊ニコレヲ貯置キシニ國內ノ貴族ナルモノコレヲ見出シテ無法ニ奪取リシト屢コレアリ實ニ此時代ニ於テハ世



祿ノ武士等穩ニ業ヲ營ムトテ取辱ト思ヒ專テ乱暴ヲ恣ニシ世人ノ貯置キシ財貨ヲ奪取ルニ少シモ憚ルトナカリシナリ
右ノ如ク天下武ヲ貴ヒ互ニ先テ爭テ富貴利達ヲ求ルハ或ハ人生相勵ニ相競フノ趣意ニ似タレモ其實ハ時勢ノ弊ニテコレヲ世ノ繁昌ト云フ可ラス文明ノ教漸ク行ハレ人々德行ヲ修メ智識ヲ研クニ至テ世ノ形勢全ク其趣ヲ異ニシ人自カラ利達ヲ求レハ共ニ他人ノ利達ヲ致シ人自カラ富福ヲ求レハ自己ノ力ヲ用テ他人ノ物ヲ貪ルトナシ

故ニ近世蒸氣機關ノ仕掛ヲ大成シ蒸氣車鐵路ノ

法ヲ發明シタルワット 下ニ略ハルグリウス 紡績

関ヲ發明 アルクライト 上同ステフンソン 下ニ略ノ

如キ大家先生モ其發明ニ由テ自カラ高名利達ヲ

得又兼テ天下ノタノニ大利ヲ起セリ加之斯ル大

發明ヲ傍ヨリ助テ其目的ヲ達セシメシ者マデモ

亦自カラ名利ヲ得テ共ニ天下ノ利益ヲ致セリ

抑文明ノ世ニ於テモ或ハ人ヲ害シテ自カラ為ニ

シ人ヲ損シテ自カラ利セントスル者ナキニシモ

非サレバ斯ル鄙シキ人物ハ多ク事ヲ成ス可能ハ

且文明開化ノ制度ニ於テ許サ、ル所ナレハ常

ニ戦々兢々トシテ其渡世ノ有様甚々見苦シキモ

ノナリ

前ノ条々ニ論スル所ヲ以テ之ヲ視レハ人生ハ互

ニ害ヲ為サスシテ各其富貴青雲ノ志ヲ達スヘク

加之互ニ相勵ニ相競テ却テ世間ノ利益ヲ致ス可

シ故ニ家族ノ間親愛慈情ヲ主トシテ相競フノ心

ナキハ老幼小弱ヲ助ケシムレカ為ナリ世上ノ交

際ニ於テ互ニ先ヲ争ヒ互ニ利達ヲ求テ其弊ナキ

ハ世界一般ノ利益ヲ為サシムレカ為ナリ皆是造

物主、然ラシムル所ニテ其心匠ノ巧ナルヲ知ル可シ

故ニ世人若シ惡事ヲ為サスニテ智力ヲ用ヒ功名青雲ニ志ス者アテバ之ヲ許シテ其通達ヲ妨ク可ラス然レドモ人モ亦妄ニ利達ヲ望ヒ熱中ノ欲ニ乘シテ之ヲ節ムルヲ知ラザレバ青雲ノ志モ變シテ野心ト成リ人ヲ利セスシテ人ヲ害スルヲ少カラズ斯ク人ノ事理ヲ誤解スル由縁ヲ察スルニ始メ私欲ヲ逞セシトシテ望ヲ失ヒ遂ニ終身ノ心事ヲ誤ルヲナレハ人ナルモノハ事ノ始ヲ謹マザル

可ラズ抑天下衆人ノ内ニハ不義ニシテ富且貴キ者モアレド固ヨリ天道人理ノ大義ニ戾ルヲナレバコトヲ智ト云フ可ラス且文明ノ盛ナルニ從テ世間ニ般ノ為ニ衆人ノ利益ヲ平均スルノ風俗トナルカ故ニ其間ニ居テ他人ノ害ヲ為シ獨リ私ノ利ヲ貪ラシトセバ必ス我力ニ及ハサルヲアル可シ
人生互ニ先ヲ爭テ自己ノ為ヲ謀ルニ似タレド事ヲ成スニハ必スシモ一人ノ力ニ非ラス常ニ他人ト交ヲ結テ其事ヲ共ニスルヲ多シ固ヨリ此交ハ

他人トノ交ナレバ家族ノ如ク親愛ノ情ヲ頼テ此
彼ノ差別ナキニハ非サレド互ニ其緩急ヲ救ヒ其
歡樂ヲ共ニスルノ趣意ナルカ故ニ人間ニ欠ク可
ラサルノ交ナリ

ワットノ略傳 [モリス・ワット]ハ千七百三十六年
英國ノダグリノックニ生レ千八百十九年同國ノ
モリス・ワットニ死セリ初ノ其父ハ富豪ノ造
船家ナリシカ晩年ニ及テ産ヲ破リ家貧ニテ其
子ヲ教育スルニ能ハス然ルニワットハ天稟多病
ニシテ家ヲ出ツルヲ好マス常ニ一室中ニ居テ

書ヲ讀ミ算術器械ノ學ヲ研究シ年十四歳ノ時
躬カラエレキトルノ器械ヲ製シタリ又其項一
日家ニ居テ茶ヲ煎スルハ茶瓶ノ蓋ヲ取テ又コ
レヲ覆ヒ瓶ノ口ヨリ湯氣ノ出ル所ヘヒテ當テ
其ヒハ湯氣ノ溜リテ水ト成タルヲ一滴ツ、計
ハ居タリシニ其叔母傍ヨリ之ヲ見テワットカ心
匠ヲ知ラス懶惰無益ノヲ為ストテ大ニ叱リ
シトアリト爾後ワットハ本草學舍密學礦山學
ヲ勉強シ殊ニ窮理學ニ於テハ其真義ニ達シ年
十八歳測量器製作ノ術ヲ學レトシテガラスゴ

一ニ行キ諸先生ニ交リ殊ニドクトルブラッキド
クトルブラッキト厚ク懇親ヲ結ヘリ同處ニ居ル
一年ニシテロンドンヘ行キコノ處ニ滞留スル
一モルソ一年ニシテ遇病ニ羅テ歸郷セリ其後
復タガラスゴロニ行テ同處ニアル學校附屬ノ
器械司トナリ一個ノ製作所ヲ設ケテ器械ヲ製
シ居タリシガ學校ノ生徒モ次第ニ之ト交リ或
ハ學術ニ不審ノ箇条アレハ時々ソットヘ質問シ
其說ヲ聞テ大ニ發明スルヲ少ナカラス當時學
校ノ評ニソットハ帝ニ精巧ノ器械司トナルニ

非ラス窮理學ノ一大先生ナリトフ其名声日ニ
高シ此時學校ニミストルロビツシナル者アリ
殊ニソットハ金蘭ノ交誼ヲ結ビソットモ亦コノ人
ニ學テ益ヲ得ルヲ多シ○ソットカ蒸氣ヲ用ヒテ
運動ノ力ヲ起サントシ其工夫ヲ始メタルハ千
七百五十五年ノ頃ナリ同年其友ロビツシト謀
テ雛形ヲ作りタレト意ノ如クナラスシテ之ヲ
廢シ十七百六十一年ヨリ六十二年ノ間ニ尚又
工夫ヲ運ラシ輕小ノ筒ヲ製シテ水鐵砲ノ形ト
ナシ之ヲ倒ニシテ其棒ニ分銅ヲ掛ケ置キ筒内

鑄ノ下ニ蒸氣ヲ入レテ分銅ヲ引揚ケ又其蒸
氣ヲ漏ラシテ分銅ヲ落トスヲ試ミシリス
一端ノ工夫ヲ成シタリト雖氏固ヨリ之ヲ實用
ニ施スニ足ラス千七百六十三年學校ヲ去リ妻
ヲ娶テ家ニ居リ手傳ノ職人^{ジョン・ガルヂ子ルナ}
ル者ヲ雇ヒ此人ト共ニ日夜苦心焦思シテ又一
ノ蒸氣筒ヲ工夫シ稍其趣ヲ改正シタレ氏底到
コヽニ二箇条ノ困難事ヲ生シ其一方ヲ救ント
スレハ一方ニ弊ヲ起シテコレヲ如何トモス可
ラズ即チ蒸氣ヲ筒ニ滿タシテ鑄ヲ一方ニ進レ

ハ隨テ又其蒸氣ヲ冷シ一度ヒ膨脹シタルモノ
ヲ即時ニ収縮セシメサル可ラス一ノ困難事ナ
リ又筒内ノ蒸氣ヲ収縮セシメテ其鑄ヲ本トニ返
セハ隨テ又筒ヲ温タム再來ノ蒸氣ヲ保テ再
ヒ鑄ヲ進ルル其温氣ヲ失ハシム可ラス一ノ困
難事ナリ右ノ次第ニテ最初筒内ニ蒸氣ヲ入ル
レハ其筒ヲ温タムルカ爲メ多少ノ熱ヲ失ヒ
又コレヲ冷シテ鑄ヲ返サントスルニハ多少ノ
時ヲ失ヒ無益ニ蒸氣ヲ費スル甚タ多シ右兩様
ノ困難事ヲ見テ^{ワット}ノ考ニハ筒ノ温度ヲ常ニ

變スルコトナクシテ蒸氣ノミヲ収縮セシムルノ
術ヲ得バ大ニ機關ノ力ヲ増スコトアル可シトエ
夫ノ端ヲ開タレバ數月ノ間其工夫ヲ遂ルコト能
ハス乃チ又木製ノ筒中徑九「インチ」長サ一「フ
ド」ナルモノヲ作り一種ノ釜ヲ用ヒテ再三再四
コレヲ試ミ熱湯ヨリ蒸氣ヲ發スル分量ハ水面
ノ廣狹又ハ水ノ多寡ニモ拘ハラズ唯熱度ノ強
弱ニ由テ蒸氣ノ分量ニ多少アルトノコトヲ發明
シ且一「インチ」立方ノ水ヲ蒸氣ニ變スレハ大九
一「フ」立方ノ分量ニ増ス可シトノ説ヲ定メ

タリ右ノ如ク次第ニ發明ヲ重サテ千七百六十
二年ニ至リ始テ蒸氣ノ筒「コン」ト蒸氣ヲ収縮
セシムル器「コン」ト別ニスルコトヲ工夫シコ
レヨリ從來ノ疑團次第ニ氷解シテ尚又千七百
六十八年「ジョン・ルー」ボックノ助力ヲ乞ヒ錫ヲ以テ
中徑十八「インチ」ノ筒ヲ造リ之ヲ試ミシニ大ニ
蒸氣ノ功用ヲ顯ハシテ翌年官許「パ」トヲ得ル
ボックハ此度ノ新發明ニ附キ大ニ力アリシ故ヲ
以テ向後コノ器械ヲ以テ得ル所ノ利潤ヲ三分
シテ其二分ヲ同人ヘ與フ可シト定メタレバ爾

後ル^一ボック^ハ金山ノ事ニ忙シクワット^ハ通航堀
割ノ事ニ掛テ蒸氣機關ヲ大成スルニ暇アラス
千七百七十三年友人ノ勸ノニ由テコレマデル
一^一ボック^ノ引受シ關係ヲソホ^ノボウル^トンニ讓
リワット^モ同處ニ行テ共ニ謀テ其翌年遂ニ新發
明ノ大業ヲ卒リテ蒸氣機關ノ社中ヲ結ビ今日
ニ至ルマテ之ヲボウル^トン及ヒワット^ノ社中ト
稱セリ初メ千七百六十九年官府ヨリ五年ノ間
專賣ノ免許ヲ得タレ其發明ノ卒業ニ至ルマテ
既ニ其年限ヲ終リシカ故ニ尚又千七百七十五

年ヨリ二十五年ノ間專賣ノ免許ヲ請ヒ其後機
關ヲ造ル^ト愈々多ク随テ造リ随テ改正シ益々其精
巧ヲ極メタリ抑コレヨリ以前ニ蒸氣機關ヲ工
夫セシ者多シト雖其之ヲ大成シテ實用ニ施シ
タル者ハワット^{ナル}カ故ニ蒸氣機關ノ發明者ト
テ其名ヲ不朽ニ傳ヘリ或人コレヲ稱シテ云ク
先生ノ工夫ヲ以テ蒸氣ノ機關一度大成ニ其力
ノ強大ナルト其運動ノ自由ナルト實ニ驚駭ス
可シ大象ノ鼻ヲ以テ針ヲ撮ミ又大木ヲ裂クモ
コレヲ蒸氣ニ比スレハ帝ニ三舍ヲ避ルノミナ

ラス以テ印版ヲ彫刺スレハ精巧ノ手モ之ニ若
カス鉄塊ヲ壓碎ケハ蠟ヨリモ軟ナリ糸ヲ紡績
スレハ其細ナルト毛ノ如ク軍艦ヲ舉レハ其輕
キト水泡ノ如シ以テ薄紗ヲ縫フ可ク以テ鋤ヲ
鍛フ可シ以テ剛鉄ヲ切テ糸ノ如ク爲ス可ク以
テ風浪ニ逆テ舟ヲ進ム可シト○千七百九十四
年ト及ヒボウルトンノ子ヲ薦メテ蒸氣機関
ノ社中ニ加入シワットハ千八百年ニ至ルマテ二
十五年間專賣ノ利潤ヲ受ケテ乃チ社中ヲ脱シ
數年前新ニ買ヒシヒース・ス・フィールドノ田園ニ歸

リ知巳ノ學友ト共ニ風月ヲ樂テ殘年ヲ終リシ
ト云フ

ステュンソンノ略傳 ジョージ・ステュンソンハ

英國ニテ鉄道蒸氣車ヲ創造セシ人ナリ千七百
八十一年ノロスオスフルラントニ生レ千八百
四十八年ワグトントンバークニ死セリ兄弟六人ア
リ其父ハ井ラムノ石炭山ニテ蒸氣ノ火焚キヲ
業トシ終歲力役シテ家族ノ衣食ヲ給スルニモ
足ラサル程ノ次第ニテ固ヨリ其子ニ字ヲ教ユ
ルノカトシステュンソンハ其第二子ニテ幼年

ノ氏ヨリ嘗テ書ヲ見タルヲナシ年九歳ニシテ
隣家ニ雇ハレ一日ニ二ハベシハ五ハ厘ハニ當ル本編
ノ附録ノ日雇賃ヲ取テ牧牛ノ番人ト為リ其外
ニ出 農業ノ手傳ヲ為シ居タリシカドモ生來ノ心願
ニテ父ト同業タラシテ好ニ年十四歳父母ニ
随テギョーリシニ家ヲ移セシ其地ニテ石炭山
ノ社中ニ愛セラレステフエシソシハ鎮着ニシテ
才智アル少年ナリトテ蒸氣火焚キノ手傳ニ命
シタリ其後火焚キノ職ニテ處々ノ石炭山ニ雇
ハレ年月ヲ經ルニ從テ次第ニ蒸氣機關ノ取扱

ヲ心得或ハ之ヲ取離シテ一通リノ修履ヲモ為
シ得ルニ至リシカニ十ハ歳ノヒマテハ讀書ヲ
知ラサルノミナラス自今ノ姓名ヲモ讀ム能
ハスコノ頃ヨリ力役ノ傍ニ石炭山ノ童子ト共
ニ夜學校ニ行キ痛ク躬カラ勉強シテ二年ノ間
ニ漸ク書ヲ讀ミ文字ヲ書キ算術モ加減乗除ヲ
自由ニスルヲ得タリ千八百二年妻ヲ娶リ二
年ノ後不幸ニシテ其妻ヲ失ヒ一子口ベルト後
家トナリ其名ヲ遺シタレハステフエシソシハ
父ニ劣ラズ
ノ兒ヲ携テキリシタルスノ石炭山ニ行キ業ヲ

營ムト雖氏固ヨリ其給料モ少ク加之其給料ノ
 内ヨリ屢父母ノ困窮ヲ救ヒ得ル所費ス所ヲ償
 フニ足ラス一身孤子ノ處置如何トモス可ラス
 或ハ又心事ヲ轉シテ亞米利加ニ行キ活計ヲ求
 ントテ其策ヲ運ラシタルトモアレ氏數千里外
 ノ遠國ハ旅用ノ方便モナク乃チ志ヲ決シ唯一
 身ノ心カヲ勞シテ以テ後來ノ禍福ヲ試ント思
 ヒ定職ノ傍ニハ器械書蒸氣書ヲ讀テ自カラ為
 ニシ或ハ人ノ為ニ時計ヲ脩履ニ履ヲ繕ヒ衣裳
 ノ敝レタルヲ補ヒ襦袢ノ垢付タルヲ洗ヒ凡ソ

手足ヲ動カシテ人ノ便利ヲ達シ我活計ヲ助ク
 可キトナレハ何等ノ煩勞ト雖氏嘗テ之ヲ憚ル
 トナシ當時石炭山ノ評ニステフエンツンハ百需
 全備ノ才物ナリトテ同職ノ役夫ニ至ルヤテモ
 皆コレヲ調法セリ斯ク時日ヲ經ル間ニ千八百
 十二年石炭山ノ主人器械改正ノトニ付ステ左
 ンツンノ説ヲ聞テ大ニ之ヲ悦ビ俄ニ撰舉シテ
 キリシタルスノ蒸氣機關司ニ命シ一年ニ百ポ
 ント給料ヲ與ヘリコレヨリスステフエンツンモ稍
 地位ヲ得テ回来ノ素志ヲ實事ニ施シ種々便利

器械ヲ製造シ就中蒸氣車ノ制式ニハ多年其志ヲ專ニスル所ニテ尚又此度ニ至リ世上在來ノ諸器械ヲ探索シ其制式ヲ見テ其功用ヲ察シ此彼相比較シテ千八百十四年一種ノ蒸氣車ヲ造テ之ヲ試ミシニ古來未曾有ノ妙用ヲ成シタリコレヨリ以前ニ製シタル車ニハ其輪ノ周圍ニ釘ヲ樹テ鐵道ノ上ニ滑ルヲ防キシナレバスラフエンソシハ此釘ヲ去リ其外變革セシ所多キニ付テハ衆議沸騰シテ其拙ヲ誇ルト雖氏毫モ屈スル色ヲク英吉利國內ノ諸老先生ヲ敵手

ト為シ獨リ其意ヲ銳シテ工夫ヲ運ラシ再三再四試驗ノ際ニ遇蒸氣ノ聲ノ喧シキヲ避ケンカ為其釜ヨリ洩ルモノヲ煙出シヨリ遁レシノシニ蒸氣ノ排出スルニ從テ風ヲ生シ火勢ヲ増シタルヲ見テ大ニ悦ビ遇然ノ發明ヨリシテ其理ヲ推シ蒸氣ノ力ヲ劇烈ニスルノ術ヲ得テ遂ニ千八百十五年再ヒ車ヲ造テ初テ大成ヲ得タリ本編蒸氣車ノ條ニ千八百十二年蒸氣車ヲ造リテ石炭ヲ運送云云ト記シタレバ其時ノ製作ハ唯其工夫ヲ始メタルニハ非サナリ蒸氣車ト云フ可キ程ノモノニハ非サナリ蒸氣車ノ如ク蒸氣車ノ制式ハ稍全備シタレバステズン

ソノ説ニ蒸氣車アレハ必ス鉄道ナカル可ラ
ス兩様ノ内一ヲ欠ケハ用ヲ成シ難シトテ乃チ
又鉄道ノ改革ヲ始メ鉄線ヲ太クシ軌道ノ幅ヲ
定メ廣キモ四ノ一トシテハ鉄線ノ從來鑄鉄ニテ造
リシモノヲ廢シテ鍛鉄ヲ用ヒ都テ堅固ニシテ
平面ノルヲ趣意トセリ○千八百十五年拿破倫
ノ騷乱初テ治リ天下太平ニ復シタルニ就テハ
國內ノ貿易モ次第ニ繁榮ニ赴キ蒸氣車鉄道ノ
建立ヲ望ム者多シト雖モ當時世上一般ノ説ニ
蒸氣車ハ坂道ノ急ナル處ニ重キ荷物ヲ引上ル

ニハ必用ナレモ尋常ノ道路ニ用ユ可キモノニ
非ラスト云ヘリステフンクンハ其同志ノ者數
人ト共ニ此説ヲ排シテ云ク鉄道ハ上王侯ヨリ
下庶人ニ至ルマテノ官道ニシテ蒸氣車一度モ
世ニ行ハレナハ驛路ノ馬車ハ地ヲ拂テ廢却ス
可シトテ初テ大業ヲ起シヘトシクノ石炭山ヨリ
八里ノ間ニ鉄道ヲ敷キ平地ハ蒸氣車ニテ自カ
ラ走リ阪道ノ處ハ道ノ傍ヘ別ニ蒸氣機関ヲ据
ヘテ之ヲ引上ケ往來ノ便利ヲ達セントシテ千
八百二十二年遂ニ其功業ヲ成シタリ此鉄道ヲ

造テ稍成功ニ至ラントスルキ政府議事院ノ評
議ニテストックトンヨリダブリントンマテノ往
來ニ鐵道ヲ造ラントテ三百ポントノ給料ヲ以
テステフェンツンヘ其事ヲ命シ且議事院ノ説ニ
其鐵道ノ平地ニハ馬ヲ以テ車ヲ引キ阪道ノ處
ヘハ路傍ニ蒸氣機關ヲ据ヘテ車ヲ引ク可シト
ノヲナレバステフェンツンハ強テ懇願シ遂ニ議
事院ノ許ヲ得テ蒸氣機關ノ車ノミヲ用ユル
ニ定リ三年ノエヲ費シテ千八百二十五年初テ
其道ヲ開キ天下ノ耳目ヲ驚カシタリ○此時ニ

至ラ世上ニ鐵道蒸氣車ノ説ヲ唱フル者益多ク
各異説ヲ立テ鐵道ハ尋常ノ路ニ若カス云々
往來ノ速ナルハ却テ不便ナリト云々蒸氣機
ノ車ヲ以テ自カラ走ルハ路傍ノ處ニ機關ヲ
置テ車ヲ引クノ便利ナルニ若カスト云々衆口
喋々コレヲ如何トモスルヲナシ殊ニリウ
ポールトマンチヌトルトノ間ニ鐵道ヲ造ルノ
評議アリシトキハ其議論益劇烈ニ及テ殆ト一
場ノ戦争ナリシカトモステフェンツンノ膽力ヲ
以テ毫モ宿説ヲ變セス千八百二十六年議事院

命ヲ奉シテ此鉄道ノエヲ始、千八百三十年
卒業セリ此時ハ蒸氣車ノ制式ヲモ既ニ改正
シテ新成ノ鐵路ヲ走リ一時間ニ三十六里ヲ行
キシモノナリ○ステュンツンハ英國ニ於テ鉄
道蒸氣車ノ事ニ就キ既ニ開祖ノ名ヲ得テ爾後
十年ノ間ハ國內ノ諸方ニ鉄道ヲ造リ或ハ外國
ヨリ、招待ヲ受ケテ殆ト閑暇ノ時ヲモ既ニシ
テ家富ニ身老シテタブトシ、バトクト云ヘル處
ニ退居シ近傍ニアル石炭山ノ事ニ關係シテ其
利潤ヲ受ケ老後ヲ樂テ命ヲ終レリ其為人幼少

ノ其リ質直ニシテ虚飾ヲ好マヌ老退ノ後モ
其舉動都テ平穩ニシテ自カヲ足レルヲ知リ眞
ニ英國人ノ氣風アリテ世間ノ人望ヲ得タリシ
ト云フ

人民ノ各國ニ合ル、トヲ論ス

英國佛蘭西澳地利普魯士ノ如キハ稍世界ノ開
ル後ニ建國シタルモノニテコレヲ旧國ト云フ可
ラズ往古人民ノ一國ト稱シ或ハ一州ト唱ヘシモ
ノハ今日ヨリ考レハ固ヨリ一國ト云フ可キ程ノ
モノニ非スコレヲ支配スル人ハ其内ノ家筋ノ者

ニテ恰モ本家ヨリ其家流ノ分家別家ノ者ヲ支配
 スルカ如シ其一群ノ人ハ一家族ノ有様ニテ本家
 ノ主人ヲ呼テ父ト稱セリ方今ニテモ亞米利加ノ
 土人其酋長ニ事ルニハ父子ノ禮ヲ以テ故ニ其土
 人ノ合衆國中ニ在ル者ハ大統領ヲ呼テ大父ト稱
 シカナダ地方ニ在ル者ハ英國王ヲ大父ト稱セリ
 既ニ今ノ英國女王ミクトリヤノ位ニ即キシ片モ
 カナダノ土人等ハ回来婦人ノ支配ヲ受ケシトナ
 キカ故ニ英國ノ女王ヲ以テ大父ト為ス可ラスト
 テ多少ノ混雜ヲ生シタルトアリ

前条ニ云ヘル如ク僅ニ一群ヲ結テ其酋長ノ命ニ
 服從セル人民等世ニ政府ヲ立ルノ法ヲ了解シテ
 バ互ニ相合衆シテ一大國ヲ建ルト英國又ハ亞米
 利加合衆國ノ如クナル可キ筈ナレバ元來人民ノ
 互ニ自由ヲ許シテ不羈獨立ノ政府ヲ設ルニ至ル
 マテハ其進步甚ク遅キモノナリ故ニ古來大國ノ
 基ヲ開キシ者ハ皆兵力ヲ以テ小弱ヲ并吞シタル
 モノニテ其人心ヲ得タルニ非ラス往古羅馬ノ如
 キ殆ト全世界ヲ押領シタルニ其實ハ世ノ人心ヲ
 服從セシメテ穩ニ他國ヲ并セタルニ非ラス唯兵

カノ威光ニ由テ天下ヲ畏服セシナリ
 方今歐羅巴ノ諸大國モ其本ハ小國ヨリ興テ他國
 ヲ蚕食シタルモノ多シ譬ヘハ佛蘭西ニテモ往古
 其國王ト唱ヘシ者ハ方今佛國ノ首府タルパリ
 ノ近傍僅ニ數里ノ地ヲ領シタルノミ今日佛蘭西
 國ノ形勢ヲ見佛蘭西人ノ常談ヲ聞ケハ佛蘭西ハ
 開闢以來今ノ佛蘭西ノ如クナリシカト思フベケ
 レ氏決シテ然ルニ非ラス其國境ノ廣大トナリシ
 ハ百年以來ノコトニテ既ニ拿破崙ノ時代ニモ屢變
 革シタルコトアリ

右ノ外西班牙ニテモ往古ハ六國ニ分レシガ千四
 百年代ノ頃合シテ二國ト成リ其後又此二國ノ君
 一ハ男主ニテ一ハ女主ナリシ者婚姻ヲ結テ國モ
 亦一ニ合シ尚又澳地利荷蘭百耳義伊太里ノ子
 プル其外亞米利加ノ地方ヲモ領シテ一時西班牙
 ハ世界中ノ強國ト稱セリ國ヲ開タル一例ナリ爾
 後西班牙ノ威力次第ニ衰微シテ所領ノ地ヲモ殆
 ト失ヒ盡シテ方今ハ唯其本國ヲ存スルノミ國ヲ
 蹙メタル一例ナリ○魯西亞ノ強大トナリシモ多
 クハ其鄰國ヲ蚕食シタルモノナリ其先代モスコ

一ニ都セシキマテハ僅ニ近傍ノ地ヲ領シテ其大
 サ今ノ荷蘭國ニ過キサリシ程ノ一ナリ○凡ソ古
 來國勢ノ俄ニ強大トナリシモノハ普魯士ニ如ク
 モノナシ方今普魯士國ハ人口二千萬ニ近ク歐羅
 巴諸州ノ内ニテ一大強國ト云フ可シ然ルニ其國
 祖先ノ由緒ヲ尋レバ今ヨリ百年以前ハブレ
 レホルフノ一諸侯ニテ人口僅ニ百萬人ヲ支配シ
 タリシモノナリ

今ヨリ千年以前ノ頃ハ不列顛英蘭蘇格蘭ヲ合セ
 英國ノ部モ十三四國ニ分レテ各獨立シタリシガ
 詳ナリ

紀元九百年代ニ至リ英蘭イギリスヲ一統セシモノアリテ
 次テ又阿爾蘭アイルランドヲ并セタレスコットランド蘇格蘭ハ千七百年代
 ノ始ニ至ルマテ依然トシテ獨立セリ此時ニ於テ
 蘇格蘭ハ貧弱ナル一小國ナレイギリス英國ヨリ兵力ヲ
 以テコレヲ攻取ルノ企ナシ千七百六年ニ至テ兩
 國ヨリ全權委任ノ使節ヲ命シテ合衆ノ談判ヲ遂
 ケ寸兵ヲ用ヒスニテ兩國ヲ并セ一大國ノ基ヲ起
 シタリ其有様ハ二個ノ商人各其貯フル所ノ財ヲ
 合セテ一ノ商賣ヲ始ルカ如シ○亞米利加合衆國
 ノ獨立セシ片モ其諸州ノ合シタルハ兵力ヲ用ヒ

シニ非ラス互ニ約條ヲ結テ一政府ヲ立タルナリ
小國ヲ合セテ大國ト爲セハ世ノタメニ利益アル
ト少カラス第一制度ヲ一致シテ兵乱ノ禍少ク言
語風俗ヲ同様ニ爲シテ人ノ交ヲ廣クシ人民互ニ
世上ノタメニ便利ヲ謀テ大業ヲ企テ才カアル人
物ヲシテ其勸ヲ逞ニスルヲ得セシム可シ今仮
ニ英國ヲ分テ二三ノ小國ト爲サバ仮令ヒ兵乱ヲ
起サハルモ其國々互ニ相羨ニ互ニ相嫉テ常ニ争
論ノ止ムトナカル可シ又一國ニ英雄ノ君出テ
善政ヲ施ストアリト雖モ唯自國ノミニ限テ其德

澤ヲ他國ヘ及ボスト能ハス加之各國互ニ其隣國
ノ產物ヨリ運上ヲ取リ其人民ヲ取扱フト外國人
ノ如クシテ互ニ相苦ム可シ昔伊太里ニ於テ斯ル
惡弊ノ流行セシトアリ
小國ヲ合セテ大國ト爲スハ固ヨリ世ノタメニ利
益ナリト雖モコレヲ合スルノ法ハ宜シク英國ノ
蘇格蘭ヲ并セタル法ノ如クナル可シ若シ然ラス
シテ兵力ヲ以テ他國ヲ押領スルキハ必ズ其間ニ
不平ヲ生シテ苦情ノ止ムトナカル可シ古來亡國
ノ人民ニ曲ヲ蒙ラサルモノハ甚々稀ナリ故ニ兩

國ノ人民同意一致シテ相合衆スレハ世界中ノ幸
トモ云フベキナレ兵カヲ以テ他國ヲ滅ス者ハ
所謂暴ヲ以テ暴ニ代ルモノニテ國境ノ弘マリ兵
カノ盛ナルニ從テ益其權威ヲ恣ニ却テ世上ノ
大害トナル可シ
或ハ又海外ノ遠方ニ所領ノ地ヲ支配スル政府
リ其支配ノ法甚々難シ殊ニ其地ヨリ土人名代ノ
議事官ヲ本國ノ政府ヘ出タス可キヤ否ニ至テハ
其利害得失未タ定ラズ凡ク世界中ニ海外所領ノ
廣大ナルハ英國所領ノ印度地方ヲ以テ最トシ之

ヲ支配スル模様モ甚々奇ナリ其土地ノ人外國ノ
支配ヲ受ルニ慣レテ自カラ政府ヲ立ルヲ好マ
ズ今日ノ勢ニテハ仮令ハ英國ヨリ其自立ヲ許ス
トモ自カラ敢テセサル可シ蓋シ英國ノ未タ印度
ヲ支配セザリシ前ハ其土地ノ人自國ノ暴君姦吏
ニ窘マラレシニ英國ノ支配ト為リシヨリ以來ハ
法律寬ニシテ政治正シク各其生ヲ安ムルヲ得
ルカ故ニ英國ノ支配ヲ離レテ再ヒ元ノ苛政ニ
陷ラレテ恐テ自カラ自國ノ政府ヲ立ツルヲ欲
セサルナリ

石ノ外英國ニハ海外所領ノ地多シト雖其模様
全ク印度ニ異ナリ亞米利加澳太利亞等ノ領地ハ
英ノ本國ヨリ家ヲ移シタルモノ多シ元來コノ
者等ハ遠方ニ行テ土地ヲ開キ新ニ活計ヲ求ルモ
ナレバ不羈獨立ノ一新國タラレト欲スルハ
至當ノ勢ナレバ事ノ始ニ於テハ其人數モ少ク未
政府ノ幹裁ヲ設ルヲ能ハサルカ故ニ本國ノ政
府ヨリ之ヲ扶助シ之ヲ保護シ其人民次第ニ繁殖
富饒ニ至ルヲ待テ乃チ其獨立ヲ許シ人ノ満足ヲ
得セシム可シ若シ然ラスニテ其既ニ獨立ス可キ

モノヲ尚束縛シテ之ヲ制セトセバ其民必ス叛
テ自カラ獨立ノ新政府ヲ建ツ可シ本國ノ良策ト
云フ可ラス

各國交際

各國自立シテ其本國ヲ守リ其所領ノ地ヲ失ハサ
ルハ多クハ兵力ノ然ラシムル所ナリ太平無事ノ
時ニハ各國互ニ相奪フノ患ナレト雖一旦干戈
ヲ開クニ及テハ侵寇掠奪至ラサル所ナレ殊ニ夷
俗草昧ノ國ニ於テハ人ノ依頼ス可キ制度ナクシ
テ其慘毒最モ甚シ他人ノ害ヲ被リシ者ハ我知已

朋友ヲ集テ自カラ離ヲ報スルノ外更ニ術ナシ諺ニ所謂有力者ハ非ヲ理ニ變ニ無力者ハ常ニ其害ヲ被ルトハコノコナリ文明開化ノ教漸ク世ニ行ハレ制度法律次第ニ明ナルニ至テ此弊害モ隨テ止ムト雖モ各國交際ノ有様ハ今日ニ至ルマテ尚往古夷民ノ互ニ匹夫ノ勇ヲ争ヒシモノニ異ナラス故ニ現今至文至明ト稱スル國ニ於テモ動モスレハ大ニ戦争ヲ始メテ人ヲ殺シ財ヲ費シ其害舉テ云フ可ラス實ニ長大息ス可キモノナリ文明ノ人民ハ其政府ニ服従スルノ便利ニ知リ且

コレニ服後セサル可ラサルノ理ヲ了解シテ自カラ政府ノ權威モ行ハレ一國ノ内治ルト雖モ固ヨリ獨立ノ國トレハ他國ノ制度ニ從フコトナシ故ニ小國ハ大國ニ侵サレレトテ恐レ亦大國ト雖モ禮ヲ知ラスレテ暴行ヲ恣ニスレハ小國連合シテコレヲ伐ツノ恐アリ右ノ次第ニテ各國ノ間ニハ常ニ爭論ノ止ムコトナク動モスレハ兵威ヲ以テ我目的ヲ達セルトスル者アリテ其交際甚ク危シト雖モ世上未タ一定確明ノ全權ナキカ故ニ其爭端ヲ防クモノナレ

世ノ文明ニ進ムニ從テ一法ヲ設ケコレヲ萬國公
法ト名ケリ抑世上ニ一種ノ全權アリテ萬國必ス
此公法ヲ守ル可シト命ヲ下スニハ非サレハ國ト
シテ此公法ヲ破レハ必ス敵ヲ招クカ故ニ各國共
ニコレヲ遵奉セサルモノナシ各國ノ間互ニ使節
ヲ遣テ其國へ在留セシムルモ其國々互ニ公法ノ
趣意ヲ忘ル、一無ラレカ為ナリ故ニ兩國ノ間ニ
怨ヲ結フト雖使節ハ敵國ニ在留シテ更ニ害ヲ
被ルコトナシ既ニ戰爭ノ始ルニ及テコレヲ其本國
へ送返ス、一斯ク敵國ノ間ニモ自カラ禮義ヲ存

スルハ文明ノ然ラシム所ナレハ往昔ハコノ一甚
タ行ハレ難ク既ニ土耳其格ノ如キハ他國ト戰爭ニ
及ヘハ先ツ其使節ヲ捕ヘレ一屢コレアリ
歐羅巴諸大國ノ間ニハ國力ノ平均ト唱ル一アリ
テ世ノ太平ヲ保ツノ一大助トナレリ方今歐羅巴
ニテ大國ト稱スルモノハ英吉利佛蘭西、澳地利普
魯士、魯西亞、是ナリ其國力ヲ平均シテ互ニ優劣ナ
キ所以ハ元相羨ミ相嫉ムノ情ニ出テシモノニテ
譬ヘハ今此五大國ノ内英國ノ蘇格蘭ヲ并セタル
如ク二國相合衆セルトスルノ勢アラハ他ノ三國

コレヲ恐レテ其合衆ヲ妨ク可シ千七百年代ノ始
ニ佛蘭西ト西班牙ト合ヒテ一國タラレトセシニ
各國兵ヲ起シテ遂ニ其策ヲ破リシコトアリ斯ノ如
ク各國互ニ相嫉ムノ勢アルニ由テ小國ノ為ニ利
益アルコト少カラス即チ大國ノ争ハ小國ノ幸ナリ
今若シ澳地利ト魯西亞トコレテ其力ヲ逞フセシ
ノナハ忽チ近隣ノ小國ヲ并吞ス可キナレト他ノ
諸大國ヨリ之ヲ妨ケ或ハ兵力ヲ以テ其強暴ヲ制
スルカ故ニ小國モヨク其國ヲ存シテ侮ヲ受ルコ
トキヲ得ルナリ抑方今諸國ノ形勢ヲ察スニ右

ニ論スル如ク唯國力ノ平均ノミヲ以テハ未タ其
争端ヲ制スルニ足ラス輒近魯西亞澳地利普魯士
ノ三大國共ニポーランドヲ滅シテ其地ヲ分チ又
澳地利ハ伊太里ノ小國ヲ押領セシ等ノコトアレト
他ヨリコレヲ間然スルモノナシ是亦如何トモス
可ラサルノ惡弊ナリ
前条ニ述ル所ヲ以テ之ヲ視レハ各國政府ノ不正
強暴ヲ制シテ全クコレヲ止ム可キノ方術アルコ
トナシ是即チ天下ニ戦争ノ止マサル所以ナリ文明
ノ國ニ於テハ二人ノ間ニ争論ヲ起シテ闘ハント

スル者アルトモ政府ノ法ヲ以テコレヲ止メ其争
論ヲ制ス可シ總テ文明ノ教ヲ被リタル者ハ戦争
ノ凶事タルヲ知り勉テ之ヲ避ルト雖モ外國トノ
交ニ至テハ然ラス或ハ事ヲ好ム者ア人人心ヲ
煽動シ或ハ其君主功名ヲ貪リ野心ヲ恣ニセント
シテ戰ヲ好ム者甚タ多シ故ニ方今歐羅巴ノ諸國
禮義文物ヲ以テ自カラ誇ルト雖モ其争端嘗テ止
ムコナシ今日ハ文明開化ノ樂國ト稱スルモノモ
明日ハ曝骨流血ノ戰場トナル可シ帝ニ桑田變シ
テ海ト成ルノ止ニ非サルナリ

文明ノ教ヲ以テハ未ダ戦争ノ根源ヲ止ルニ足ラ
スト雖モ稍其惨毒ヲ緩ニス可シ亞米利加ノ土人
ノ如キハ其敵ヲ害スルニ惨刻兇惡至ラサル所ナ
シ夜間ニ村落ヲ襲ヒ婦人ヲ害シ小兒ヲ殺ス等ヲ
以テ嘗テ卑怯ノ舉動ト思ハズ自カラ好機會ヲ得
タリトセリ文明ノ師ニ於テハ然ラス無鼻ノ婦人
小兒ヲ殺スヲ以テ恥辱トシ敵ノ政ヲ伐テ敵ノ民
ヲ殺サルヲ戰ノ趣旨トス故ニ敵ト戰フハ必
ス其兵士ニ向ヒ敵國ヲ伐ツルハ必ス其城ヲ攻ム
村落ヲ侵掠スルトモ徒ニ其民ヲ害スルニシテ

攻伐ノ目的ヲ達スルニ足ラサルカ故ニ直ニ其首
 府ニ進ミ其政府ニ迫テ勝敗ヲ決スルナリ
 往昔ハ各國ノ政府艱難ヲ凌キ危険ヲ犯シ唯其隣
 國ヲ害スルヲ以テ自カラ剛勇ニ誇リ鄰國ニ罪人
 アレハ之ヲ匿シ鄰國ニ逋債ヲ負フ者アレハ之ヲ
 助ケ或ハ又隣國ニ争乱ヲ起ス可キ由緒ノ人アレ
 ハ財ヲ散シ兵ヲ費シテ之ヲ扶助セサルコトナシ故
 ニ英國王¹スチュア¹トノ家ヲ絶チシキモ佛蘭西ニ
 テ其家名ノ人ヲ助ケ數十年ノ間英國ノ煩ヲ爲シ
 タルコトアリ

事ハ本編英國
 條ニ詳ナリ

歐羅巴昔年ノ事情斯ノ

如クノリシト雖モ近來ハ漸クノ惡風習ヲ除キ
 各國互ニ其人民ノ為テ謀テ相助ケ此彼相賴テ國
 ヲ建ルノ勢ヲ得タリ
 英國ニテ貿易ノ法ヲ一新シテコトヲ寬大ニセシ
 ヨリ諸國ノ交際更ニ懇親ヲ増シタリ英國ノ貿易
 盛ナルニ就テハ諸國ノ人民英國ニ物ヲ賣テ利ヲ
 得ルモノ多キカ故ニコレト戰フコトヲ好ス且其
 國々ノ間ニモ戰爭ノ事アレハ自カラ英國トノ貿
 易ヲ妨ケ隨テ其人民ノ損亡タル可キヲ知テ太平
 無事ヲ祈ル者多シ故ニ方今英國ノ貿易愈盛ナル

後テ各國戦争ノ禍モ愈稀ナルベシ如之英國ニ
テハ貿易ヲ盛大ニシテ一國內ノ繁榮ヲモ致セシ
トナレバ諸國ノ政府モコレニ倣テ其商法ヲ寛ニ
シ各國此彼ノ便利ヲ謀テ益々文明開化ノ教ヲ施シ
遂ニハ天下無窮ノ太平ヲ見ル可シ故ニ云ク各國
戦争ノ原因ヲ絶ツハ貿易ノ法ヲ寛ニスルニ在リ

政府ノ本ヲ論ス

前既ニ云ヒシ如ク人生ノ天稟相異ナリト甚シ或
ハ筋骨ノ強壯ナル者アリ或ハ身軀ノ虚弱ナル者

アリ或ハ才力ノ剛毅ナル者アリ或ハ精心ノ懶惰
ナル者アリ或ハ人ニ先ツテ人ヲ制スルヲ好ム者
アリ或ハ人ニ後ヒ人ヲ頼テ事ヲ成スヲ好ム者ア
リ草昧夷俗ノ民間ニ於テハ此天稟ノ異同殊ニ著
シクシテ人生ノ害ヲ爲スト最モ甚シト雖モ文明
ノ進歩スルニ後テ漸ク此不平均ヲ一致ニ或ハ全
クコレヲ一致スルヲ能ハサルモ其不平均ヨリシ
テ世上ノ害ヲ生ゼシムルヲナク却テ轉禍為福ノ
處置ヲ施ストアリ
草昧夷俗ノ國ニ於テハ強キ者ハ事ヲ為スニ意ノ

如クナラサルコトナク弱キ者ハ唯命是レ從フノミ
 現今土耳其格ノ奉行ニ向テ禮ヲ失スル奴僕アレバ
 劍ヲ拔テ之ヲ切捨ルトモ妨ナシ今ヨリ百五十年
 前ハ蘇格蘭ノ北方ニ於テモ其酋長ハ部
 屬ノ小民ヲ切捨ラシ例アリ又數百年前封建世祿
 ノ時代ニ於テハ其慘酷コレヨリ甚シ日耳曼ノ一
 諸侯嚴冬ノ夕ニ獵ヨリ歸リ手足寒シトテ其家來
 ヲ殺シテ腹ヲ剖キ鮮血淋漓タル腹中ハ兩足ヲ入
 レテコレヲ温タメシコトアリト其殘忍ナルコト實ニ
 名狀ス可ラサルナリ今夜ニ英國ニ於テ富豪ノ貴

族一小民ニ逢ヒ其衣ヲ奪テ自カラ着スルコトアラ
 ハ之ヲ許ス可キヤ後令ニ縉紳ノ大家ナリト雖且
 罰ヲ蒙ルコト必セリ文明ノ德澤ナリ
 天稟ノ不幸ニシテ人ニ及ハサルハ五官ノ具ヲ欠
 クモノヲ最トス即チ盲聾啞ノ如キ是ナリ夷俗ノ
 國ニ於テハ斯ル不幸ノ造物ヲ路傍ニ棄テ、問ハ
 ス甚キニ至チハ故ヤラニ之ヲ殺ス者アリ支那ノ
 如キハ全ク開化ヲ被ラサル夷狄ニモ非サレバ尚
 盲啞ヲ棄或ハコレヲ殺スノ惡習アリ文明開化ノ
 國ニ於テハ然ラス天稟不具ノ人アレバ帝ニ其生

命ヲ保護スルノミナラズ又從テコレヲ教ヘ其不
具ヲ補テ平人ニ齊シカラシメシトテ勉メリ故ニ
盲者ニ書ヲ教ルニハ其文字ヲ作リ聾啞ニ言語應
對ヲ教ルニモ其法ヲ設ケ其功德實ニ~~大~~可シ亞
未利加ニ一女子アリ名ヲローラブリドマシト云
フ目見ル能ハス耳聴ク能ハス口言フ能ハスサレ
ルヨク文字ヲ解シテ知巳ノ人ニ書翰ヲ送ルトテ
得ルニ至レリ故ニ其耳目ハ人ニ及ハサレ其精
心ハヨク天地萬物ノ理ヲ辨レ世界人類ノ情ニ通
セリ

世ノ開ルニ從テ小弱無力ノ者相共ニ謀テ人々ノ
通義ヲ達シ生命ヲ保護スル為ノ處置ヲ設ケコレ
ヲ國ノ制度ト名ケリ元來制度ノ目的トスル所ハ
人ノ強弱智愚ニ拘ハラズ各其生命ヲ安シ其私有
ヲ保タシメントスル趣旨ナルガ故ニ無謀過激ノ
徒ハ之ヲ忌ミ此法則ヲ破ラントシタレバ衆寡敵
シ難ク遂ニ理ヲ以テカヲ制シ一定ノ制度ヲ施行
スルトテ得タリ是即チ世ニ政府ノ起リシ本源ナ
リ政府トハ人心ヲ集メテ一躰ト爲シカヲ以テ衆
人ノ意ヲ達セシムル所以ノモノナリ

草昧ノ始ハ先ツ法ヲ設テ然ル後ニ人ヲ制シタル
モノ歟或ハ人々交際ノ上ニ自カラ法ヲ生スルモ
ノ歟其前後得テ知ル可ラス然レモ人アレハ必ス
法ナカル可ラサルノ理ナレハ人間交際ノ始ヨリ
同時ニ其法モ定リ兩様相共ニ進歩スルモノナル
可シ凡ソ地球上人類ノ集ル所ニハ人々互ニ其通
義ヲ知リ自カラ一種ノ政府ヲ建サルモノナシ亞
非利加ノ南方ニ「ボスマント」テ一種ノ野民アリ其
民嘗テ世ニ政府ノアルコトヲ知ラスト云ヘリ然レ
モ其政府ナキハ元來土地廣ク人口少クミテ相集

ルコト稀ナルガ故ナリ野民ノ内ニモ自カラ人望ヲ
得テ人ヲ歸服セシム可キ人物ノナキニハ非ラス
又澳大利ヲ發見セシキニハ人皆其國內ニ政府ノ
種類ナキモノト思ヒシニ其後人口ノ多キ所ニ行
テ之ヲ見レハ果シテ其首長アリ其外亞米利加ノ
土人ニモ首長アリ「ニュー・ジブラド」ニモ往昔ハ土
地ノ王ト稱スル者數人アリシコトナリ
人間群ヲ為セハ必ス一種ノ政府テ立テ、其取締
ヲ設ケサル可ラス實ニ欠ク可ラサルノ急務ナリ
今國法ヲ犯シ徒黨ヲ結テ賊ヲ爲ス者ヲ見ルニ尚

西洋事情 卷一

其内ニ自カラ法則アリ即是レ盜賊ノ政府ナリ又
 橋下ニ往居スル乞兒ニテモ多人數相集レハ自カ
 ラ法則ヲ設ケテ互ニ便利ヲ謀レリ即是レ乞兒ノ
 政府ナリ昔伊太里ニ強賊アリ其賊首ハ金玉ヲ以
 テ衣裳ヲ飾リ配下ノ者ヲ号令スルニ甚ク威權ア
 リシト云フ

草昧ノ始ニ政府ヲ建テ法ヲ設ケシ形勢ヲ察スル
 ニ其概略左ノ如シ身軀強健ニシテ心力勇壯ナル
 モノヲ首長ト為シ年長ニシテ事物ニ熟練セシ者
 ヲ謀主ト為シテ日ニ戰鬪ヲ事トシ小弱未熟ノ少

年ハ其首長ニ事ハテ禮ヲ盡シ以テ他人ノ侵掠強
 奪ヲ遁レシトニテ人口次第ニ増シ居處次第ニ定
 ルニ随テ制度法則モ漸ク正理ニ赴クトハ雖氏一
 幹ノ人氣皆私欲ヲ恣ニセシテ動モスレハ亂
 暴ノ舉動多シ血統ノ子孫ニ家ヲ傳フルハ往古ヨ
 リノ風俗ナレド亦其時ノ事勢ニ應ジテ今ノ世ニ
 行ハル、相續ノ法トハ自カラ其趣ヲ異ニスルコ
 アリ譬へハ往昔蘇格蘭ノ君死シテ幼少ノ子アレ
 ハ其子ヲ立テスシテ年長ノ弟ニ位ヲ傳ヘリ蓋シ
 爭亂ノ世ニ當テ幼君ニテハ事務ニ堪ヘサルカ故

ナルハシ又歐羅巴諸國ノ歴史ヲ按スルニ國君ト稱スル者其始ハ唯一種族ノ酋長ニテ次第ニ土地ヲ押領シ遂ニ一國人民ノ上ニ立テ政ヲ施スモノナリ
右ノ如ク國君ノ起立ハ其事情曖昧ナレバ數百年ノ間世々相傳テ自カラ門伐ノ名ヲ取り就テハ尚又牽強附會ノ說ヲ立テ、益其威光ヲ耀サントシ或ハ之ヲ天與ノ爵位ト稱ヒリ近世ニ至テハ其歷代愈久ニキニ從ヒ其位モ亦愈固クシテ容易ニ之ヲ動かカス可ラス若シ強テ之ヲ動かカサントスレバ

國ノ制度モ共ニ變動ス可キノ勢トナレリ抑一國ノ内ニハ人物モ少ナカラサレバ門地ニ拘ハラズ才德アル者ヲ撰テ君ト為シ國政ヲ施シテ妨アル可テサルノ理ナレバ立君ノ制度ヲ以テ國ヲ治ントスルニハ國內ノ人望ヲ得タル名家ノ子孫ヲ奉シ恰モ之ヲ其家族ノ惣名代トシテ君上ノ位ニ立テ人心ヲ維持スルニ若クハナシ是レ所謂理外ノ便利ナリ
政府ノ躰裁ハ各相異ナルト雖其大趣意ハ前ニモ云ヒシ如ク唯人心ヲ集メテ恰モ一躰ト為シ衆

民ノ為ニ便利ヲ謀ルヨリ外ナラス國政ノ方向ヲ示シ順序ヲ正スルノ事ハ一二ノ君相又ハ議政官ノ手ニ非サレハ行ハレ難キカ故ニ人心ヲ集メテ一幹ト為サ、ル可ラス衆民ノ便利ヲ謀ルニモ人心一致セサレハ衆ヲ害シテ寡ヲ利スルノ患アルカ故ニ此亦政府ノ上ヨリ處置セサル可ラス本來諸國ニ政府ヲ立テ、國民ノ之ヲ仰キ之ヲ支持スル所以ハ唯國內一般ニ其德澤ヲ蒙ラシメテ望ムノミ、趣意ナレハ政府タランモノモ若シ國民ノ為ニ利ヲ謀ルコトナクハ之ヲ有害無益ノ長物ト云

フ可シ就中其職分ニテ最モ緊要ナル一大事ハ法ヲ平ニシ律ヲ正スルニ在リ是即チ人民ノ生ヲ安シ自由ヲ得私有ノ物ヲ保ツコトヲ得ル所以ナリ故ニ政ヲ施スニ誠實ヲ主トシ公平ヲ失ハサレハ佞令ヒ一時ノ過失アルトモ其政府ヲ遵奉セサル可ラズ

西洋事情外編卷之一終

